

通 算 2624回  
2010年8月20日  
第 7 回 例 会  
毎 週 金 曜 日

会報編集 山田仁法委員長

## 8 月 会 員 増 強 及 び 拡 大 月 間

ロータリー体操 ヘルスサポート委員会  
点 鐘 小林清市パスト会長  
歌 唱 ヲンガリーダー 原田知一郎委員長  
国 歌 「君が代」  
R. S 「奉仕の理想」  
司会・進行 井手富浩プログラム委員長

### 会長の時間

小林清市パスト会長



中川会長はじめ直近のパスト会長のお二人、さらに宮原副会長まで総勢10名の方々が昨日から、10名の青少年達を引率して訪韓されています。そのため私が会長の時間を担当することになりました。約10分間、お付き合い下さい。

韓国慶山ロータリークラブとは、1976年（昭和51年）6月の姉妹クラブ締結以来、34年余の長いお付き合いになります。青少年交流事業は、1990年（平成2年）8月17日～23日に第1回目の交流が始まり、今回の訪問で第10回目を迎えます。当初は、毎年交互に訪問団を送っていましたが、両クラブ会員の負担も大きいということで、最近は2年毎の交互訪問となっています。前回の第9回交流は2007年（平成19年8月24～27日）の3泊4日で、韓国から12名の青少年と7名の慶山RC会員が来人し、11名の当クラブ会員宅でホームステイをしていただきました。この時も前年が当クラブ50周年事業の年であったため、先送りとなっていました。本来ならば昨年が第10回目の交流事業の年でしたが、昨年は両クラブの姉妹締結調印式のため今年に延期された次第

です。これまで9回に亘る両国の青少年たちが互いの国を訪問し、風習、文化、慣習を学び、互いの気持ちを理解し、友情を育んできました。今回も10名の青少年たちが有意義な経験し、成長の糧にして欲しいと願っています。そして、20名の訪問団が無事に帰人されることを祈念します。

ここで、慶山RCのある慶山市のことを少しお話したいと思います。慶山市は韓国第3位の都市である大邱広域市の南西部に隣接し、人口約24万人で、ここ2,3年も延べ7%の人口増加をみえています。大邱市のベッドタウンとして、宅地開発による人口増加を図るだけでなく、近郊農業も盛んで、生鮮野菜、果物特にリンゴ、ナツメの栽培も盛んです。一方、嶺南大学、大邱大学、大邱韓医大など13の大学があり、教育熱心なことで知られる韓国の中でも慶山市が「韓国最大の学園都市」と言われていることは大変誇らしいことではないでしょうか。在籍する大学生も約12万人もいますので、昼間人口はかなりの規模になるようです。大邱氏から慶山市まで地下鉄も延伸されたと聞いています。また中小企業を中心とした製造業も盛んで2つの産業団地が完成して以来、急速に成長している先端産業、知識産業の進出も想定されています。もともと慶山市は農業のまちで、大都市近郊の立地を生かして、農、畜産業を伸ばす一方、都市化に伴う影響もあり、農家の戸数も毎年少しずつ減少しています。今後も農地などの緑地を残しながら宅地開発などの都市化を進めていくことは非常に重要なことです。きちんとした都市計画の下での開発が進められていることは素晴らしいことです。両クラブ間の青少年交流事業は小さな交流に過ぎませんが、交

流に参加した青少年の成長につれて大きな流れになり、日韓両国の友好、親善の大きな礎になると信じています。

交流と言えば、最近の芸能界の男女交流も盛んで、石田純一みたいに自分の息子より年下の東尾理子との結婚式、披露宴では靴下を履いたと話題を集めていました。どうでもいいことがTV放送されたりしています。またエビマオ結婚披露宴が話題になりました（知らない人のために・・・エビとは市川海老蔵、マオとは小林麻央元女子アナのことです）。1000人の招待客を椅子席で収容できるホテルも話題になりました。その披露宴の様子がTV放送されていたのでご存知の方も多いかと思えます。ザ プリンス パークタワー東京のことです。実は先日、このホテルで勉強会があり参加して来ました。3日前に披露宴があったのは地下2階の宴会場というので、後学のため見学してきました。このホテルは33階建てで、芝の増上寺に隣接し、東京タワーの間近に建っています。2室の主宴会場をはじめに17の宴会場があり、この主宴会場の広さが夫々2,400㎡で最大で3,200名の利用が出来るという、日本最大級の宴会場とのことです。この披露宴の司会を務めた徳光和夫が私たち勉強会の特別ゲストだったのも何かの縁でした。広大な、エビマオ結婚披露宴会場は入り口から高砂までの直線距離が80mといますから、ウェディングドレスを纏った新郎新婦にとっては、まさに疲労宴だったと推測します。時間が来ました。会長代理の時間を終わります。

## 幹事報告

馴田信治副幹事

### 【連絡事項】

- (1) 本日は、岩本会員に新入会員卓話をおねがいしております。
- (2) 2010-11年度「RI超我の奉仕賞」の推薦についての案内が来ておりますので、ロータリー情報の片岡委員長にお渡しいたします。
- (3) 平成22年度(43回)人吉歳末たすけあい演芸会開催に伴う後援願いについてのお願いが届いております。社会奉仕委員会葉山委員長にお渡しいたします。
- (4) 2012-13年度国際ロータリー会長を選ぶ指名委員会は埼玉県八潮(やしお)ロータリークラブの田中作次氏を指名しましたとの連絡が届いております。
- (5) 9月6日芦北レストランよしみにて会長幹

事合同会議が開催されますので、会長幹事で参加して参ります。

- (6) ロータリー財団セミナー開催のご案内が届いております。日時：平成22年9月18日(土)13:00～16:30、場所：大分文化会館 中川会長と和田R財団委員長に参加して頂きます。

### 【回覧】

- ・ 米山梅吉記念館より賛助会ご入会のご案内が届いております。
- ・ 健康保険人吉総合病院より広報誌「翔」
- ・ 八代南ロータリークラブより週報
- ・ 八代ロータリークラブより週報

### 【本日の配布】

- ・ 人吉ロータリークラブ葉
- ・ 人吉ロータリークラブ会報2623回

### 【例会取止め/変更】

宇土RC9/29→18:30～場所:ロンロン  
 熊本西RC9/14→納涼例会の為19:00～  
 場所:熊本全日空ホテルニュースカイ  
 熊本東南RC9/1→9/4 17:40～ビル列車例会  
 場所:熊本駅-三角駅-熊本駅

## 出席率報告

平田フク委員長

本日の出席率			
会員数	70名	72.72%	
出席免除	4名	8/6例会出席率	87.87%
欠席者数	18名	補 填 数	8名
出席者数	48名	修正出席率	100%

### \*届け出欠席者

伊久美・中川・渡辺・大久保・齊藤・和田・宮原・浅野  
 有村・永江・馬場・石原・木村・田上・小林祐・水野  
 尾方・養田・堤正・外山

### \*出席免除 定款第9条第3節(b) 4名

増田、愛甲康、山本、山口

### \*メイクアップ

人吉中央RC：中川・渡辺  
 多良木RC：中川・渡辺  
 芦北RC：渡辺・尾方・中川・大久保  
 ココ箱委員会家庭集会：水野・北・小林祐

### 【雑誌委員会】

#### ロータリーの友8月号の紹介

紹介者 友永和宏委員長

横書きの表紙は、飛騨山脈の中部に位置しています、燕岳です。はるか槍ヶ岳、穂高連峰を望む眺望が表紙となっています。

P1「地域を育み、大陸をつなぐ」と題した、クリンギンスミス会長のメッセージ 会員増強特集として、1) P6「凜として100歳」と題して宮崎南RCの100歳の現役会員を紹介。2) P7岡山西南RCのチューター制度や新入会員研修会を紹介。3) P10「数字で見るロータリー」①女性会員の割合、②

世界の女性ガバナー数、③ゾーン別会員数の推移、④会員数の多いクラブベスト50などを紹介。ちなみに、①国外、国内ともに増加傾向にあります。2009年、国外は15.94%で、国内は4.18%となっています。②は2001年の7.54%から増加傾向にあり、最高は2006年の13.04%となっています。③すべてのゾーンで、減少傾向にあります。④日本では、東京のクラブが、332人で、世界の32位にはなっています。P12「生きる喜びを分かち合う」と題して、モンテリオール国際大会の内容を紹介しています。

P17では、今、世界は「急接近する中国と台湾」と題して田岡俊次氏が中国と台湾との現在の関係と称して解説しています。

各国の国情を紹介する記事をロータリーの友で連載するにあたって、第1回の執筆を依頼されたと書かれてありますが、本誌の編集者の良識を疑いたくなるような人選であると思いました。

この田岡俊次氏のことを、ご存知の会員も多いと思いますが、もともとは、朝日新聞編集委員で、現在は、軍事評論家、ニュース解説委員など肩書きも多く、著明な方ではありますが、偏ったものの見方をされる方で、言論会では、「逆神」という不名誉なあだ名もついている方です。案の定、内容も、田岡氏の都合のいい部分を強調し、いかにも中国と台湾が経済的、政治的に密接な関係を構築しつつあり、それをアメリカが歓迎しているかのように書かれています。しかしながら、馬英九総統は、8月19日の産経新聞の第一面で、「経済中心の協力は拡大するが、中国の軍備拡張に対して、国防については警戒心を弱めてはいない」として、米国から引き続き武器を購入して、米台の軍事協力を維持すると表明しています。したがって、現在の中国と台湾の関係を正しく伝えていないと思いました。ロータリーは政治を持ち込まないというふうに聞いていましたが、この点からもおかしな人選、内容であったと思います。

P20、米山奨学事業の基礎知識として、奨学金制度の解説がされています。P22では「8月にこんな事がありました」と題して、1910年8月15～17日にシカゴで開催された第1回年次大会の様子が紹介されています。

次に、縦書きのページ、縦書きの表紙は、水越 武氏が撮影しました、西表島の

さんご礁の写真です。

P2、「生き生き子育て・心育て」と題して、埼玉大学教育学部教授の尾崎啓子氏の子育てに対する信念が語られています。

氏の長い実践の中から、「親と子の触れ合いの大切さ」と「大人たちが子供にできることは何か」について語られています。

保健所での子育て相談で経験した、「三十歳代の息子の引きこもりの相談に来た、六十歳代のご両親の話」、「リストラにあって沈んでいる五十歳代息子の相談に来た、七十歳代の親御さんの話」、また「赤ちゃんが笑わないと相談に来た若いお母さんの話」などを上げて、親は子供のことをいつまでも思い、子供も親のことを思っている証拠だと述べています。氏は、親子の気持ちの通じ合いがあれば、多くのことがうまく行くと語っています。そうするためには、まず、家庭内での両親、兄弟など、家族とのかかわりが重要。自立した人間育てるためには、愛のあるしつけが必要。「甘えさせる」のであって、「甘やかせる」ではないと語っています。

P7の友愛の広場では、7題の投稿がありました。その中で、蓼科の寺田静嗣会員からの投稿で、第二次大戦直後の古橋廣之進さんとの思い出が語られています。日本人に対する偏見が大変強かった、戦後のオーストラリアで、日本人の地位向上のために活動した、古橋さんの行動に感銘を受けました。

P12、卓話の泉では、「チーム医療」「日本の苗字」「グリーン電力」と題して、3題投稿されています。

P14、ロータリー俳壇、歌壇、柳壇が掲載されています。P16、「言いたい聞きたいでは」、ロータリークラブやロータリーの友に対して、言いたいことや、質問を受けるコーナーが設けられています。P20、「ロータリーアットワーク」では、各ロータリークラブの活動状況が、13クラブから報告されています。中でも、熊本東南クラブの「ドクターヘリ実現に向けて！」では、熊本県議会でドクターヘリ導入の承認を得るまでの、熊本東南クラブの活動が紹介されています。

以上です。

## 【プログラム委員会】

### 新入会員卓話

岩本光義会員

職業分類；電気通信事業、会員歴4ヶ月の岩本です。「新入会員卓話」の時間をいただきました。この「卓話」の話は、当初、6月

18日(金)に「新入会員卓話をやって貰いたい」と前年度プログラム委員長から話がありましたが、私の都合で延期していただき、2回目の日程が8月6日(金)となっていました。こちらの方も、例会時間の都合で延期していただいたため、本日、3回目にしてようやく実現した次第です。そうであれば、卓話の話も十分に考えて来たであろうと皆さん思われるかもしれませんが、あまりお話することが思い浮かびませんでしたので、私の生い立ち(生まれてから高校生まで)の話をさせていただきます。

#### (生誕)

私は、昭和27年に現在居住しています村山台地(人吉市城本町)で生まれました。4人兄弟の中で3番目に生まれた男で、他は女ばかりの兄弟の中に生まれました。戦後7年も経過した頃に生まれたのですが、決して生活は豊かではありませんでした。そのような中、両親は農業を専業とし、子供4人を一人前になるまで育ててくれました。本当に感謝しております。

#### (村山台地の変遷)

さて、私が育った村山台地は(台地と言っても平坦なものではなく、凹凸した山)、まだまだ現在のように開発が進んでおらず、山と開墾によって作られた畑が点在する場所でした。その台地で大きな建物と言えば人吉市立西小学校が木造2階建ての校舎で、前後2棟並んで建っていたくらいです。現在は平屋の鉄筋コンクリートの校舎に変わっています。小学校6年生の頃、西小学校の隣に熊本県立球磨工業高校ができました。それまで段々畑であったところをブルドーザーで均し校舎を建てたのです。現在の野球グラウンドあたりに火葬場があったのを覚えています。火葬場には行ったことは一度もありませんでした、おそらく行くべきところでもないと思っていたのと、怖かったのでしょう。

また、約30年前位に人吉市立第二中学校が、現在カルチャーパレスのある下城本町から新築移転しています。このように村山台地も賑やかになりつつありますが、テニスコート、サッカー場を備える自然公園「村山公園」もあり、市民にも親しまれる憩いの場所が変わりつつあります。

#### (遊び)

このように村山台地も様変わりしてきていますが、現在とは違うまだまだ自然そのものが残っていた村山台地で私は育ちました。子供の頃は、野山で鳥をとったり、山を下りて

小川で魚を掬ったり、釣ったりと、捕まえるだけの遊びをしていました。

山に行く時は、必ずと言っていい程、鉈(ナタ)、鎌、小刀を持ち歩いていました。今では子供がそのような物を持ち歩くだけで大問題となりますが、当たり前のように持ち歩いてたのです。

その当時、親から教えられたことは、「刃物は絶対に人に向けて使うな!人に怪我をさせるぞ!」と厳しく言い聞かされていたので、そのことだけは守っていました。なぜそんな危ない物を持ち歩いてたかという、鳥を捕まえるには罠を仕掛ける必要があるため、罠を作るためであったり、時には自分たちの隠れ家(棲み家)を作ったりして遊んでいましたので。本当に考えられない遊びをやっていたと思います。

#### (遊びから覚えたこと)

他にも、落葉樹が色づき始める秋になると、「あけび」とか「むべ(うべ)」を取りに行ったり、熟した柿をちぎったりしていました。それから、ちょっとした遊びから覚えたと思いますが、山芋(自然薯)も掘っていました。皆さんもご存じのとおり、山芋(自然薯)は、市販されている長芋とは味が違いますし、粘りけが違います。子供がなんで「山芋掘り」なんか?と思われるかもしれませんが、「山芋掘り」が楽しくて掘っていたのです。大きいものを見つけて掘るのは当たり前なことなのですが、山芋を最後の根っこの部分まで傷つけることなく、完全な形で掘り上げることに執念を燃やしていたのです。それを達成することに喜びを感じていたように思います。

#### (野球への想いと武道への道)

話は変わりますが、私が育った時代は、「巨人・大鵬・卵焼き」という位、プロ野球界では、巨人が9年連続日本一に輝くなど、全盛期を築いた時期でしたので、私も小学校4年生の頃から野球をしてみたいと思うようになっていました。しかし、グローブを持っていないと草野球にも加われないため、親に「グローブを買ってくれ」をせがんでいました。グローブの値段は当時の岩本文尚堂さんで1,000円位であったと記憶しております。決して安いものではありませんでした。

その頃の両親は「将来のことを考えて、小さな地域に閉じこもって遊ぶのではなく、市内でもっと多くの子供たちとも遊べるような場所に出て行って欲しい」との想いをもっていらしいのです。ちょうどタイミングよ

く、近所の人から話があった少年銃剣道クラブ(正式名称ではありませんが)への入部を進めだしました。私は、どんなことをするのかわからないクラブへは入りたくありませんでしたが、「入部すればグローブを買ってやる」と言われ、二つ返事で入部を承諾していました。やっぱり子供だったんですね。ものに釣られるとは。それからというもの、20人位の生徒(市内の小学生から中学生まで)で練習が始まりました。練習日は日曜日午前中、場所は青井阿蘇神社の境内で行われました。戦争時代に陸軍の中尉か少尉をされた方達の指導のもと、毎回毎回、形(かた)の練習ばかりでした。結局、試合形式の練習をさせてもらったのが中学校に入ってからだだと思います。そのお陰と、スポーツ人口の少なさが手伝って、中学校3年生の時に出場した第11回全日本銃剣道選手権大会の中学生の部で準優勝を果たし、高校3年生の時に初めて開催された第1回全日本銃剣道選手権大会に出場し、高校生の部で団体優勝、個人優勝のダブル優勝を果たすことができました。この大会では、何ととっても個人戦決勝戦において、少年自衛隊グループトーナメントから勝ち上がった選手と戦い、勝つことが出来た事が本当に嬉しかったことを思い出します。銃剣道が好きで始めた訳ではありませんが、熱心に指導してくださった方のお陰でもあり、地道な練習がもたらしてくれたものだと感謝しております。段位は熊本県銃剣道連盟少年部の4段のままで止まっておりまして、高校卒業後がする機会もなく、現在に至っております。同じ時期になりますが、中学校2年生から高校3年生までの間は、銃剣道をしながらか柔道にも熱中していました。こちらの方は、私自身が小柄で上背が無いため成果というものはありませんが、中学校3年生で初段に合格し高校3年生の時に2段の昇段試験に臨みました。合格条件は、勝ち抜き戦で、3人勝ち抜くことと、形の演技で決まるようになっておりましたが、2人勝ち抜いたところで、ほっとしてしまい3人目に敗れたため、合格することができませんでした。この敗れて悔しい想いは今でも忘れることはありませんが、「試合では最後の最後まで気を抜かず、無心になって戦うこと」を教えて貰いました。小学校の頃は野球をしたい気持ちで一杯であったものの、結果的には野球の道ではなく武道の道に進むことになりました。現在、高校3年生の息子が小学校4年生から野球を続けてくれたことは、自分がしたかった

ことをやってくれたのかなとも感じています。この息子も人吉高校野球部で甲子園を目指し頑張っていました。先月行われた熊本県大会初戦に途中から出場し、結果的には「最後のバッター、見事な空振り三振」で野球生活に幕を閉じることになりました。これからは次の目標である大学進学に向け、毎日朝早くから夏課外授業に出かけています。

#### (最後に)

私が子供の頃は、物があまりない時代でしたが、隣近所のおじさんおばさん達も含め、いつも見守ってくれる人達がおり、悪いことをした時には誰からも厳しく怒られ、善悪の判断など教えてもらいました。最近では、少子・高齢化・核家族化が進み、昔のようにヨソの子を叱ることがなくなってきておりますが、出来れば、子供は家庭生活・地域生活のなかで、皆で育てていくことが一番ではないかと思っています。私自身は良き時代に育てて頂いたと感謝しております。

この辺で私の生い立ちの話を終わらせていただきますが、私のつたない話を最後までご静聴頂き有難うございました。

### 地区指導者育成セミナー報告

高山征治地区職業奉仕小委員会委員

みなさんこんにちは。本年度、地区に出向させて頂いております高山です。委員会は職業奉仕小委員会です。8月1日に中川会長さんと2人で地区指導者育成セミナーに出席してきましたが、私が聞いてきたことを人吉RCの皆様にお話しすることも仕事と思っておりますので時間を頂きました。

今回のセミナーでは、木下ガバナーは第2660地区(大阪府)2009-2010年度研修委員会が作った「ロータリーの心と実践」という冊子を配られ、お話をされました。今回はその中で、ロータリーに入会するといつかは出会う、決議23-34についてお話したいと思えます。ロータリー活動の基本は優秀な職業人であるロータリアンが毎週一回例会に出席してロータリーの哲学である奉仕の心を学び、それを通して親睦を深め、それによってさらに、奉仕の心を深め、充実させていくところにあります。例会出席によって形成された奉仕の心はロータリアン個人がそれぞれの家庭、地域社会、国際社会で実践に移すこととなります。1910年代に入って、このようなクラブとしての実践を伴わないロータリーの理念に飽き足らず、クラブとしての金銭的奉仕

や身体的奉仕の実践をも積極的にするべきであるという動きが顕著になってきました。実践派の先頭に立ったのは身体障害児の保護、教育に貢献してきたエドガー・アレンでした。彼は、1918年、オハイオ州エリリアロータリークラブに入会し、ロータリーは一丸となってこの事業にあたるべきであると主張して、1922年のロサンゼルス大会に身体障害児救済事業に関する決議案をトレード、クリーブランド各クラブとの共同提案として提出しました。理事会はこれを受けて、この事業を奨励する決議22-17を採択したのです。これに力を得た実践派の動きはますます活発になり、「ロータリー創立の理念を守るべき」というシュルドンを中心とする理念派との対立が深まり、ロータリーは分裂の危機に瀕します。議論の中心は多額の金銭的支出を伴うクラブによる団体奉仕を、ロータリーの奉仕として認めるか否かでしたが、個人奉仕と団体奉仕、さらには金銭的奉仕の是非にまで話が広がったということです。国際ロータリー理事会は、收拾がつかない状態になることを回避するために、両派の考え方を調和させるとともに、従来からあるいろいろな奉仕の考え方や行動を整理・調和させるための努力を繰り返します。最終的には、1923年セントルイスの国際大会で、テネシー州ナッシュビルロータリークラブのウイルR. メニアJr. を中心とする委員会によって起草・提案された決議23-34の採択によって、論争の終止符が打たれ、両派の対立は解消しました。

決議 23-34 は、国際ロータリー並びにロータリークラブの未来の指針として綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を明確に表わすために提案されたものであり、ロータリーの綱領に基づくすべての活動の指針であると同時に、ロータリーの奉仕理念を表す唯一の文書でもあります。

その第1条では、ロータリーの奉仕理念が、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (He profits most who Serves best)」という標語に表される「科学的かつ道徳的な経営方針によって、自分の事業や同業者の事業の発展を図ると共に、業界全体のモラルを高めていこう」という職業奉仕の理念に支えられた「超我の奉仕 (Service above Self)」の哲学、すなわち、他人のことを思い遣り、他人のために尽くそうという国際社会を含む奉仕活動の根本原理であることが明確に定義されています。

第2条と第3条にはロータリークラブお

よび国際ロータリーの役割がそれぞれ明文化されており、

第4条にはロータリーの奉仕の哲学は単なる理念の提唱ではなく、実践の哲学であり、奉仕活動を伴わねばならないというロータリー活動の重要なポイントが述べられています。第5条には、クラブはその奉仕活動を自主的に選択する権利を有することと、その選択に対して国際ロータリーの取るべき立場が、また、第6条には奉仕活動選択の指針が具体的に記載されています。さらに、この決議で忘れてならないことは、第4条でロータリー個人にも、ロータリークラブにも、奉仕の理念に基づく実践が求められていることを述べたうえで、6-g項に、ロータリーの奉仕活動の実践は個人奉仕が原則であって、クラブが行う奉仕活動は会員の訓練のための例示であることが明記されていて、奉仕の実践は、個人奉仕か団体奉仕かという論争に終止符が打たれていることです。

#### 【ニコニコ箱委員会】 延岡研一委員

- ・延岡会員 本日は法人会青年部の講演会の案内をさせていただきありがとうございました。岩本光義会員、少年銃剣道全国大会初代チャンピオンおめでとうございました。心より敬意を表します。県民体育祭の人吉市代表をお願いします。 2,000
- ・井手会員 岩本光義会員 新入会員卓話ありがとうございました。プログラムの関係で振り回し申し訳ありませんでした。2000
- ・立山会員 本田さん、先日のローターアクトのひまわり亭清掃作業の後は、焼肉をして頂きありがとうございました。いつもいつもやさしい心づかい感謝します。 1,000
- ・安達会員 8月11日に娘(天音美広アマネヒロ)のデビューシングルが発売となりました。明日の少林寺拳法の記念式典において、石蔵会員のお孫さんのピアノ演奏、娘も拳士OBとして歌います。よかったらCDを聴いてください。(1,000円です。) 3,000
- ・岩本泰典会員 ①安達会員より娘さんのCDを頂きました。10月24日、人吉高校同窓会の関東支部同窓会で歌って頂きます。ご成功を祈ります。 1,000  
②岩本光義会員が子供さんの頃、文尚堂からグローブを買って頂いたそうです。私に言って頂ければ無料で差し上げましたのに・・・。 1,000  
ニコニコ・ごめんねカード8/20合計10,000

点 鐘 小林清市パスト会長